

不斉自己触媒反応の発見

ノーベル化学賞に東京理科大・碓合憲三氏ら

スウェーデン王立科学アカデミーは10月7日、今年のノーベル化学賞をアンリ・カガン博士と東京理科大学名誉教授の碓合憲三博士(76)に授与すると発表した。

受賞理由は「不斉有機合成における非線形効果と自己触媒反応の発見」。碓合博士は、東京理科大学在籍時に、生成物そのものが触媒となって同じ反応を促進する「不斉自己触媒反応」を世界で初めて発見した。この反応は「碓合反応」として知られ、生命を構成する分子がなぜ片方の「鏡像」に偏っているの



受賞中に物買いでスーパーの近所の知らせを聞いたという碓合博士

かといった、生命の起源にも関わる謎の解明につながる研究として注目されてきたという。碓合博士は7日夜、東京理科大学神楽坂キャンパスで会見を開き、喜びを語った。「敬愛するカガン博士と一緒に受賞できてとても嬉しい」と率直に受賞の感想を語るとともに、自身の研究分野について「完全に解明できたわけではなく、まだまだ分からないこと、面白いことがあるはず。今後も研究が進むように微力ながら尽力したい」と述べた。

臨時国会、常任委員長決定

衆院文科委員長に前農水相

臨時国会が10月5日に始まった。第2次高市改造内閣の発足後では初めての国会。高市早苗首相は5日の所信表明演説で「世界共通のリスクや課題に先手を打つ『危機管理投資』や、未来を切り拓く『成長投資』を大胆に進める。そして、力強く持続的な経済成長を実現する」と強調。最優先課題として経済政策に取り組む姿勢を示した。政府は食料品を対象にした消費税減税関連法案の成立を目指す方針だが、野党との間で激しい論戦が予想される。会期は12月12日までの69日間。

また、衆議院と参議院は5日の本会議で常任委員長を選出。衆院文部科学委員長には鈴木憲和氏(自民)、参院文教科学委員長は塩村文夏氏(立憲)が就いた。

リカレント教育推進を目指す

生涯学習分科会、まとめ骨子公表

文部科学省は10月1日、「中央教育審議会生涯学習分科会」を開催した。

今期の分科会では、前期の議論を踏まえつつ、「社会人のリカレント教育の推進に向けた取り組み」「社会教育活動の推進方策」の2点を中心に議論を進めており、この日、「審議のまとめ骨子(案)」を公表した。

同案では、▽リカレント教育の推進▽社会教育の推進方策▽日本語教育の推進の3つを柱に、現状と課題、今後の展望を整理。

リカレント教育の推進においては、成人学習参加率の伸び悩み、学習時間・費用・情報の不足、地域による学習機会の格差などのほか、大学、企業、個人の課題も指摘した。これらの課題や大学等の具体事例なども踏まえ、学びやすい環境・学習機会の確保や学修成果の可視化、学びの継続・高度化、産学官金の連携などが必要と明記。リカレント教育を「学び直しが必要と前社会」の基盤として

定着させることが重要であり、国が関係省庁との連携強化し、スキルの可視化、プログラムの質保証、経済的支援、成果の評価・活用を一体的に進めるとしたほか、大学・企業等が担う役割も示された。

社会教育の推進方策については、社会教育を地域コミュニティを支える「基盤」として位置づけ、社会教育人材の質的・量的な拡充、地域における社会教育の実施体制の充実と裾野拡大、社会教育の実践を支える仕組みの構築・整理が必要とした。また、社会教育主事・社会教育士については養成課程・講習の改善、実践確保、資格取得後のフォローアップ等を一体的に進めるとしている。

加えて日本語教育については、日本に居住する外国人が生活を円滑に営むための日本語教育の在り方の検討や、日本語教育機関認定制度の実施に取り組む。また、リカレント教育との関係性も踏まえながら、地域社会における生涯学習と日本語教育の関連について議論を進めるとした。今後、とりまとめに向けてさらに議論を深めるとしている。